

# 定光寺自然休養林における松喰虫防除について

岡崎営林署 立入 純 夫

## 1. はじめに

定光寺自然休養林は、名古屋市の近郊に位置し、深山幽谷の趣きはないが、西北部の暖帯林を主とした天然林は、玉野川の溪谷美を充実させ、又、丘陵地帯のスギ、ヒノキ、マツの人工林も違った趣きで、多くの人に親しまれている。

その中でも、マツは、古来からの日本自然美の代表樹林として、日本人の心や暮らしに深く結びついているが、ここ定光寺自然休養林でも、マツの見せる風景は、なくてはならないものになっている。

ところが、近年このマツ林が、夏から秋にかけ、次々と枯れる現象が現われ、全国的に猛威を振っており、林業界の問題だけでなく、国民全体の強い関心を引く社会問題となっている。

当署もこの渦中にあり、署をあげて被害防除の取組みを続けているところである。

今回の報告は、昭和54年度、瀬戸担当区において、実施した防除事業の一つと、その結果報告である。

## 2. 休養林の概要と松喰虫被害

当休養林に占める松林の分布は、全体の61%にあたる422 haで、松喰虫被害による松林の減少は、休養林の存続にも関わる問題である。(表-1 参照)

松喰虫による被害の推移も、昭和49年、初被害以来、年々増加し、昭和53年度は、前年度186本の被害に対し1,233本と約7倍という異常な発生を見た。(表-2 参照)

又、被害数量と併行して、松枯れの主因である、マツノザイセンチュウの運び屋である、マツノマダラカミキリの誘引器による捕獲数も、年々増加している。

## 3. 地上散布の実施

松喰虫の防除方法のうち、従来から実行して来た伐倒駆除は、枯損した松を秋から冬にかけて伐倒し、その樹体内に寄生している松喰虫を駆除するもので、いわば事後的な措置である。今後被害拡大のおそれのある松喰虫に対し、地上又は空中からの薬剤防除に比べ、予防効果がそれ程期待出来ない、単木的な処理であった。

そこで広域かつ、一斉に防除出来る空中散布が望ましいが、休養林の周囲には民家の密集地域、田畑、養魚池等があるため、従来は伐倒駆除のみで対処してきた。

しかし昭和53年度は異常発生したため、より効果的な防除方法を検討する中から、地上散布を取り

入れた。

#### (1) 散布区域の決定

自然休養林で風致上保護を要する林分が多いことから、出来ることなら、これら全域に地上散布を実施したいところであるが、次の様な点を考慮して、27.90 haを選定した。

- ア 散布機の散布能力からして、林道等、散布車の侵入可能な箇所から50mの区域に限定された。
- イ ヒノキの造林木に薬剤のかかるおそれのある松林については、ヒノキへの薬害を防ぐため、区域から除いた。
- ウ 民家、田畑、養魚池などの近くは危被害防止上、散布区域から除いた。

#### (2) 散布方法の決定

散布薬剤の200倍液の場合、残効期間は1か月とされており、マツノマダラカミキリの羽化脱出期間から考えて、1回目の散布日から1か月後、さらに1回、計2回散布することが、望ましいが、経済性も考え、2か月以上残効期間のある100倍液の1回散布とした。

#### (3) 散布時期の決定

散布効果を上げるためには、まず最適期の散布が大切である。

そのため、発生予想調査を厳密に行い、マツノマダラカミキリの羽化脱出直前、すなわち6月上旬とした。(表-4参照)

以上(1)~(3)をまとめると下記のとおりである。

- ア 散布期間……6月5日~6月8日
- イ 散布面積……27.90 ha
- ウ 使用薬剤……MED(スミチオン50%乳剤)100倍液 800ℓ/ha
- エ 使用機器……大型防除車 2台
- オ 実行形態……請 負

## 4. 実行結果

今年度はじめて、地上散布を実施したところであるが、地元理解、協力を得られ、天候もよく、順調に作業も進み、薬害もなく、全体的に大きな成果があったものとする。(表-5参照)

## 5. むすび

都市近郊林である国有林のあり方は、木材生産との調和を図りながら、国民にとって大切な緑の環境維持培養が求められており、我々もそれに向かって努力しているところであるが、今回実施した散布面積はマツ林422haの僅か6%であり、これをもって松喰虫防除に成功したとは考えていないが、松喰虫被害の渦中にある当署は“緑の山”を守るために、松喰虫防除を積極的に取り組んでいく必要のあることから、散布機器の改良、散布方法の改善等、更に検討を進めて参りたいと思っている。

表-1

### 定光寺自然休養林の概要

所 在	愛知県瀬戸市川平町		
面 積	722 HA		
年間入込者	50 万人		
マツ林	天然林	305HA	42%
	人工林	137、	19、
	計	422、	61、

表-2

表-3

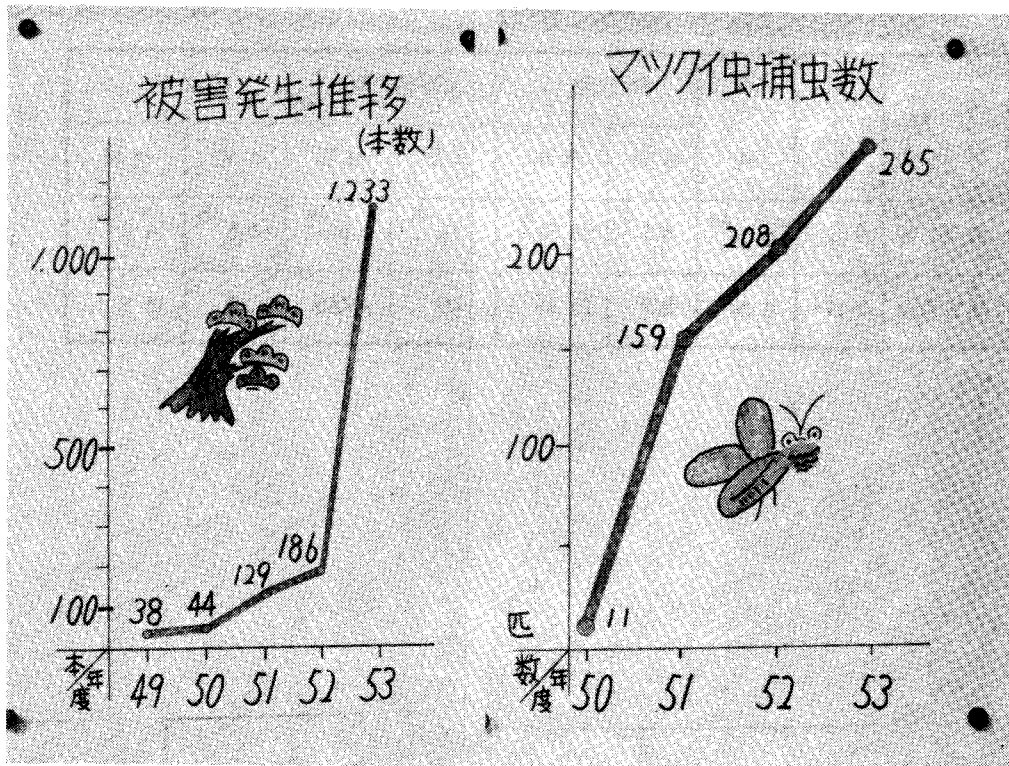


表-4 マツノマダラカミキリの発生予察調査

区分	5月			6月						7月					
	20日 まで	25	31	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	31
羽化発生					7	10	10	25	15	12	7	5	3	3	1
積算温度	141.5	199.7	257.5	315.4	371.2	418.6	498.8	581.1	644.4	701.4	773.1	837.3	981.3	1,082	1,164

◎ 供試木は瀬戸国有林93ろ林小班にて採取し、担当区事務所で観察、調査した。

◎ 供試木(径4~12cm、長さ1m)30本

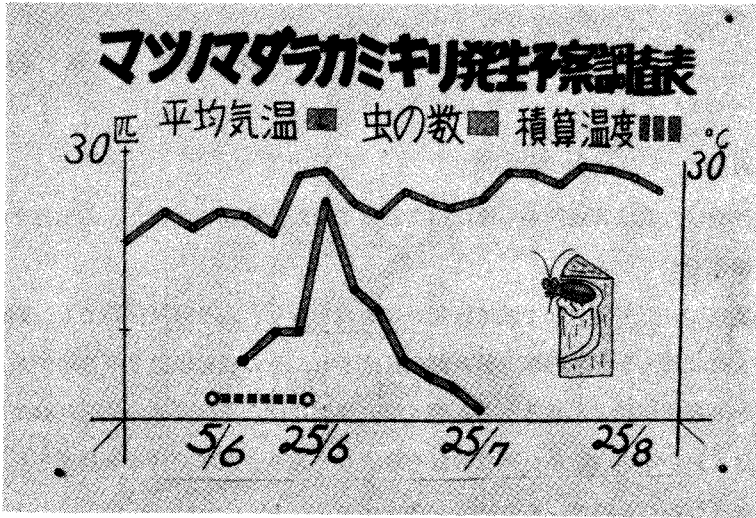
表-5 地上散布の効果調査

(標準地による)

区分	林 小 班	面 積	散布前		被害発生量		被害率	
			本数	蓄積	本数	材積	本数	材積
散布地	90い	0.26 <sup>ha</sup>	307 <sup>本</sup>	23.33 <sup>m<sup>3</sup></sup>	11 <sup>本</sup>	0.98 <sup>m<sup>3</sup></sup>	3.6 <sup>%</sup>	4.2 <sup>%</sup>
無散布地	91い	0.26	262	14.15	32	2.049	12.2	14.5

8 月						計	参 考	さくら気候		
5	10	15	20	25	31			咲始め	満 開	葉ざくら
						98	発生初日 6月7日 ピーク 6月25日 300°日度C 6月4日 500° // 6月21日	3月25日	3月30日	4月5日





### 地上散布の効果調査 (標準地による)

本数	散布地	
	無散布地	
材積	散布地	
	無散布地	